

2017年5月22日(月) 10:30~16:00

幕張テクノガーデン西中央館 CB棟 301号

平成29年度文部科学省「日本/ユネスコパートナーシップ事業」

第10回日本ジオパークネットワーク全国研修会

持続可能とは？またその教育とは？

【概要】

日本国内でジオパークの活動が始まってから今年で10年を迎え、各地のジオパークでは保全、教育、ジオツーリズムに関する様々な取り組みが行われている。それらは毎年開かれる全国大会や研修会などを通じて共有され、優れた活動の推進や、共通の課題に対する解決策の模索が行われてきた。その結果、ジオパークでの活動は多種多様で質の高いものへと日々進化している。中でも、教育活動はジオパークの活動の柱の一つであり、学校教育や生涯学習でのジオパークの活用促進や、教材や副読本といった印刷物の作成、ガイドをはじめとする教育活動に関わる人材の養成など様々な実践が展開されている。

しかし、多くの先進事例が共有され、教育活動に求められる質や量が上がる一方で、なぜジオパークで教育活動を行うのか、ジオパークで目指す教育とはどのようなものなのかということについて、時間をかけて考察し議論し合う機会は、残念ながらこれまでほとんど提供されていない。そこで本研修会では、そもそもジオパークが目指す持続可能な開発とは何かということから始め、「持続可能な開発のための教育」に対してジオパークでは何ができるのか、ジオパークらしい教育とは何かを議論を通じて模索していくことを目指した。

ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」は、UNESCOと文部科学省の強力な推進の下、学校教育現場を中心に展開されている。一見すると、ジオパーク活動とは別個に進められてきたように思えるESDの取り組みは、実は、共に目指すところは同じ持続可能な開発であり、両者の高い親和性が見込まれる。さらに、ESDは2017年3月に公示された新学習指導要領において基盤となる理念として組み込まれた。ジオパークの教育活動がESD実践であることをジオパーク関係者が理解しその対応を検討することで、学校教育現場での活動の幅を大きく広げることが期待される。

【内容】

10:30-10:35 事務連絡

10:35-10:40 挨拶 米田 徹 理事長 (糸魚川市長)

10:40-11:00 報告

「ジオパークの教育のこれまでとこれから」 報告者 山本 隆太 氏 (静岡大学)

これまでジオパークの全国大会などで行われてきた教育に関する議論や、教育ワーキンググループのメンバーで行ってきた活動(教育事例集の作成、雑誌連載等)について報告した。

11:00-12:30 グループワーク①

(1) 地域の課題(例:人口流出など)を付箋に書き出し、重要度によってランク付けす

る。ランク順に並べ、付箋の端にその順位を記入する。

(2) 模造紙に三等分の線を書き入れた円を描き、それぞれの該当箇所に「ジオ」「エコ」「ひと」と書き入れる。先ほど書いた付箋を重要度が高いものから順番に「ジオ・エコ・ひと」の中でどの部分に一番関係した事柄か考えながら配置する。配置後「ジオ」「エコ」「ひと」の各領域で付箋（課題）が極端に少ない部分があれば、議論を行い追加できる課題があれば追加する。

(3) 重要度が高い課題から順に、他の課題と繋がりがあるか検討する。繋がりがある場合は線で結ぶ。この時、互いの事象が促進しあう場合は桃色の線、抑制しあう場合は青色の線で結び、地域の「ジオ・エコ・ひと」のバランスや関係性について考える。

12:30－13:30 昼食休憩

13:30－13:35 オブザーバー紹介

13:35－13:45 他グループが作成した「ジオ・エコ・ひと」関係図を見て回る

13:45－13:50 いくつかの「ジオ・エコ・ひと」関係図の紹介、説明

13:50－14:20 グループワーク②

(1) 「ジオ・エコ・ひと」関係図をみながら、ジオパークで目指すべき状態（課題が解決された状態）について考察する。一つの課題の解決のみに重点を置くとその他の課題に様々な影響を及ぼすことから、大切なのはバランスであり、「ジオ・エコ・ひと」について考察し続けることが必要であることを確認する。

(2) (1)を確認したうえで、地域住民が地域について考え続け、行動し続けるためには、子どもたちに何をどう伝えていけばよいのかについて議論する。

(3) (2)を踏まえ、ジオパークとして取り組むべきこと、また支援出来ることは何かについて議論する。

(4) (2)と(3)から、ジオパークでの教育とは何かについて議論し、短いキャッチコピーとしてグループの意見をまとめる。

14:20－14:35 まとめ

14:35－15:30 講演

「ESDの目指す教育とは？～伊豆市立天城中学校の実践事例から～」

講師 大塚 明 氏（持続可能な開発のための教育推進会議）

ESDとは何かという概要や、自身の天城中学校校長としての体験を基にした教育現場でのESD実践について講演した。また、新学習指導要領などにも触れ、ESDの考え方が今後の学校教育において重要になってくることも示した。

15:30－16:00 事例紹介

発表者 鈴木 雄介 氏（伊豆半島ジオパーク）

ジオツーリズムとは何か、持続可能とは何かについて講演した上で、それらを担う人材を育成するのがESDであることを紹介した。また、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)にも触れ、地域だけではなく世界を視野に入れた活動が必要であることも示唆した。

16:00－16:30 グループワーク③

- (1) 講演や事例紹介を聞いた上で、ジオパークでの教育と ESD について異なる点と共通する点について議論する。
- (2) 改めてジオパークでの教育とは何かについて考察、議論する。

【まとめ】

本研修会の参加者の内、およそ半数はジオパークに関わりだして 2 年未満であり、教育や ESD よりもまずジオパークそのものの理解を促進する必要があった。他方、すでに 10 年近くジオパークを推進してきた参加者もいたため、グループワークではジオパークの担当年数の近い者同士でグループを編成して議論を行ったところ、互いに共通する疑問点を話し合えてよかったという声が多かった。これからも、参加者のニーズや取組みレベルに合わせた研修会を開催する必要がある。日本全国のジオパークから様々な事例が紹介され、優れた事業は多くのジオパークで模倣されることで、日本のジオパーク全体の活動は日々進化してきたのであり、これからも協働していくことが期待される。

しかしその反面、各地のジオパークでは実施すべき事業に追われ、なぜその事業を行うのか、その事業を通してジオパークが目指すものは何であるのかということ考察、議論する機会が減少してきているのも事実である。本研修会では、もう一度自分の地域の実情を見直し、地域の課題は何であるのか、目指すべきものは何であるのかということ議論した。特に、ジオパークに特有の地域観ともいえる「ジオ・エコ・ひと」の図を活用し、ジオパークならではの方法で地域課題の把握に取り組んだ。その結果、ジオ・エコ・ひとの整理方法で見事に地域の課題とそのつながりをまとめることができたグループがある一方、付図の左図のように、人間活動（ひと）ばかりに意識が向かい、ジオやエコへの視点を十分に持ち合わせていないグループも見受けられた。それは、グループワークの発表を掲載した別表に示されたように、「ひと—ジオエコのつながり ジオストーリーを語る」や「地域のいいところわるいところも身近なところから伝えよう」という研修会を踏まえた意見が出てきた点や、「ふるさとを、先人を誇れる子供たち」という従来通りの視点が出された点においても確認することができる。引き続き、ジオ・エコ・ひとの見方に関する議論を続けることで、ジオパークは持続可能な開発のプログラムであるという視点にまで行きつく必要があるといえる。

また、ジオパークで目指す教育とはどのようなものか、どのような教育的な貢献ができるのかについても考察した。研修会の中では ESD の教育実践の紹介や、SDGs に関する報告も盛り込み、ジオパークを活用した学校現場での ESD としての広がり可能性や、グローバルな視野の必要性などを共有することができた。しかし、ジオパークに対する理解が従来の地域振興から持続可能な開発という視野へ転換しない限り、いくら教育を論じても従来の地域学習やふるさと学習といった視点から ESD へと継続的に発展させることはできない。ESD の理解を広めるためにも、その前提となる持続可能な地域社会づくりについて研修を行うことが必須であることを重ねて確認した。

以上をまとめると、本研修会では、地域の様々な課題をジオパークの「ジオ・エコ・ひと」の枠組みで整理することができた一方、ジオパークが持続可能な開発のプログラムであることを改めて理解する必要があることがわかった。また研修会の方法として、参加者が主体性を持ち、地域や地球の未来について積極的に考察し議論するためには、参加者のニーズやレベル別の研修会を行う必要がある。

ジオパークの関係者が地域や地球の未来について主体的かつ対話的に取り組むことで、ジオパーク活動のさらなる進展が見込まれ、ジオパークが目指す持続可能な開発に繋がっていくことが期待される。

【成果物】一部抜粋

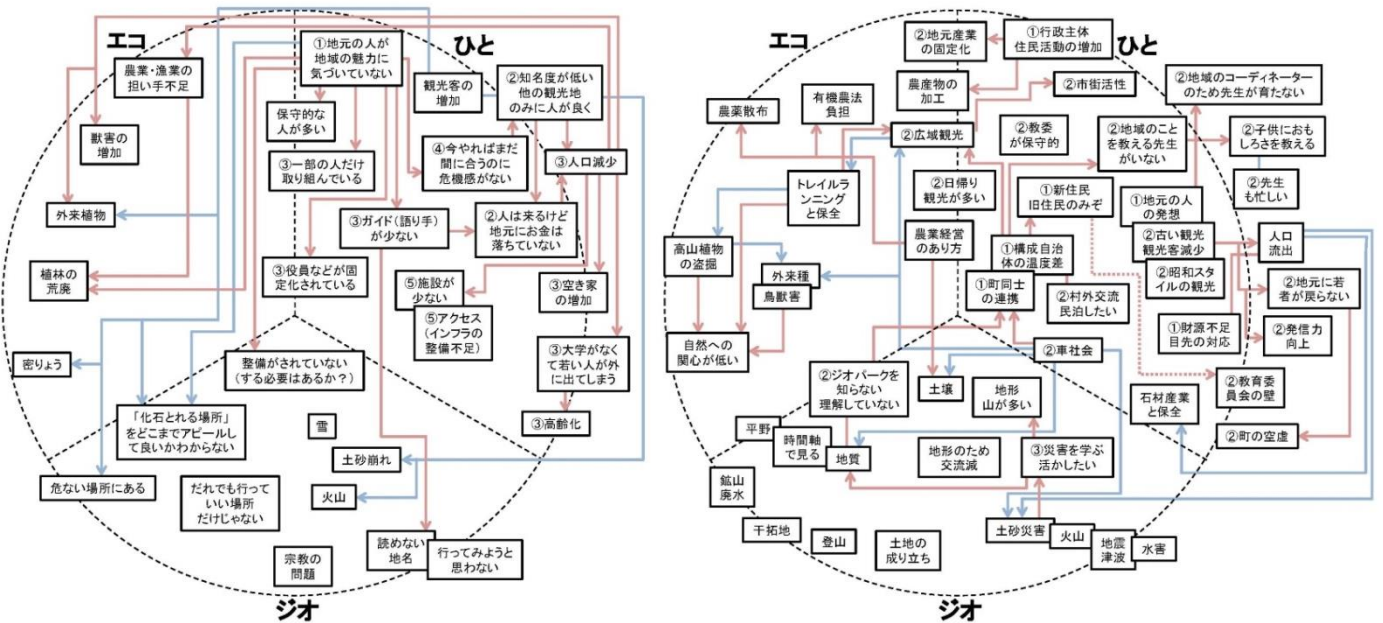


図 「ジオ・エコ・ひと」で整理された地域の課題群

ジオパークの教育とは・ 短いキャッチコピーとして

比べて再発見地域の魅力 ○○ ジオネットワークを使った交換留学

ひととジオエコのつながり ジオストーリーを語る

身近なことから楽しく伝える ジオの旅

地域のいいところわるいところも身近なところから伝えよう

足元の大地が語る○○○！

地球すげえ！

ふるさとを、先人を誇れる子供たち

地域のあたりまえは当たり前じゃない

「なぜ」を伝える

東京に行かなくてもいい人生もあるんだよ

地球(みんな)の気持ちを考えよう

地球と人の営みを本当に貴重なことをわかりやすく伝える

○○年度の未来像を自分で考えてみよう

伝えるというより感じる

表 研修会まとめ ジオパークの教育とは